

きかわだ STATION

自立と誇りある日本をつくる

国民の信頼を取り戻すために

～最近の自民党内の動きと私見～

きかわだひとしが取り組む詳しい政策は下記QRコードから公式HPをご覧ください

自民党埼玉県第三選挙区支部
(衆議院議員黄川田仁志事務所)
電話 048-962-8005
FAX 048-961-8905



第 104 号

『きかわだステーション』
令和7年8月発行

公式ホームページ www.kikawadahitoshi.jp



国民の信頼を取り戻すために ～最近の自民党内の動きと私見～

▶▶▶参議院選挙を受けて

参議院議員選挙の結果、私の所属する自民党は大敗を喫し、1955年の結党以来初めて、衆参両院で少数与党となりました。直前の東京都議会議員選挙でも厳しい結果となり、直近の国政・地方選挙で、国民の皆様から立て続けに「ノー」を突き付けられた形です。

なぜ自民党は信頼を失ったのか。私自身、深く自問自答を繰り返しています。

▶▶▶自民党の敗因～3つの問題点

私自身、主な敗因は3つあると思っています。

1つは、政治資金の不記載問題等により、自民党に対する不信感を招き、それを払しょくできなかったことです。実際に、この政治不信によって、昨年秋の衆議院議員選挙では多くの自民党候補者が落選しました。政治資金の問題は与野党間で協議を重ね改革を進めていますが、失った信頼を完全に取り戻すには、まだ努力が必要です。自民党に所属する国会議員一人ひとりが足元を見つめ直し、初心を忘れず、真摯に政治に向き合い、結果を積み重ねて信頼を回復するしかありません。

2つ目は、国民生活に根差し、国民に寄り添った現実的な政策を示せなかったことです。

物価高が続き、家計や中小企業が苦しむ中で

自民党は減税を含む具体的な経済対策を十分に示せませんでした。そのため、「自民党では何も変えられない」「財務官僚の言いなり」「国民の暮らしを理解していない」との印象を与えてしまいました。

私は、場当たりの減税やバラマキには反対ですが、時代の変化に応じた税制の見直しや、必要に応じた減税は真剣に検討すべきだと考えます。前例踏襲に走りがちな各省庁に正面から向き合い、制度を見直して国民の暮らしを守る柔軟さを持たなければなりません。硬直した姿勢こそが信頼を損なったのです。

さらに、国民への寄り添いが不足していたことも問題でした。例えば外国人に係る政策では、自民党は入管行政の取り組みとして「国民の安全・安心のための不法滞在者ゼロプラン」などを進めてきました。しかし、国民の不安や疑問に正面から応え、丁寧に説明する努力が足りませんでした。政策を実行しても、国民に「声を聴き、共に歩んでいる」と伝わらなければ評価されず、「何もしていない」と見なされてしまいます。このことによって、自民党は「国民を守れない政党」「保守政党ではない」と判断した方が少なくなかったと痛感しています。

3つ目は、党内議論の不足です。

私が議員になりたての頃、安倍総裁と谷垣幹事長の下での自民党では、派閥や当選回数 裏面に続く

を問わず意見を述べられる雰囲気がありました。その結果、国会採決など重要な局面では党が一丸となることができました。ところが現在は、選挙公約のような重要政策であっても、党内で十分議論されず、議員が報道で方針転換を知ることさえあります。特に経済政策が二転三転し、国民の皆様にも不信を抱かせました。議論を尽くしてこそ責任政党であることを、今一度肝に銘じなければなりません。

▶▶これからの自民党のあるべき姿

今、自民党内では現執行部体制の継続か刷新かが議論されています。地元をまわると「執行部を一新すべきだ」という声と同時に「身内で足を引っ張るべきではない」という声の両方をいただきます。

しかし、私は三度にわたる選挙大敗の現実を直視しなければならないと考えます。国民が示した意思を踏まえ、現執行部は責任を取り、新体制の下で党改革を進めるべきです。そのため私は、総裁選挙の前倒し実施を求めています。

もちろん私自身も、自民党所属の一員としての責任を免れません。まずは自ら襟を正し、信頼回復に努めます。そのうえで責任政党・保守政党として、経済の安定と成長（物価高対策や雇用の安定、子育て・教育環境の充実など、働く世代の生活に直結する課題の解決を含む）を通じて国民生活を守ること、外交・安全保障において国益と治安を守り抜くこと、この二つを両輪として改革に取り組みます。

▶▶今後に向けた決意

以上のとおり、自民党が直面する課題は容易に解決できるものではありません。しかし、困難だからといって立ち止まるわけにはいきません。今こそ責任政党として、国民の信頼を取り戻し、

現実的な政策を一つひとつ実行していくことが求められています。

今回の選挙では、「自民党は保守政党ではない」「国民生活をわかっていない」との厳しい声をいただきました。だからこそ私は、自民党が本来の保守政党としての原点に立ち返り、国の歴史や伝統を大切に、国益と治安を守り抜くとともに、経済の安定と成長を軸に据え、物価高対策や雇用の安定、子育て・教育といった生活に直結する課題にも着実に応えていくことが不可欠だと考えます。保守政治とは、現状維持ではなく、日本の将来を守るための現実的で誠実な政治のあり方です。その原点に回帰してこそ、国民の理解と信頼を再び得られると確信しています。

私は国民生活を守り、日本の未来を切り拓くために、これからも一議員として全力を尽くしてまいります。時に厳しいご意見も率直に受け止め、行動につなげていく所存です。今後とも、温かいご指導とご支援を心よりお願い申し上げます。

衆議院議員 黄川田仁志

自民党越谷支部より申入書をいただきました



7月24日（木）自民党越谷支部が緊急全体役員会を開催し、石破茂総裁、森山裕幹事長、衆議院議員黄川田仁志に対し、申入れを行いました。内容は、参院選の敗北の責任を取るために党本部執行部の早期退陣と、党员投票を含む総裁選挙の実施、新体制下での党改革を求めるものです。皆様の申入れを基に活動して参ります。